

## 第2次上牧町地域福祉活動計画 第3回策定委員会 議事録

平成28年2月9日(火)15:30～

上牧町保健福祉センター会議室1.2

出席者 策定委員21名中18名  
小口 将典 井尻 常正 安居 眞佐夫 藤井 照雄  
竹原 金子 渡邊 文彦 宮城 美和 尾崎 和代  
辻井 典子 江川 律子 藪下 和洋 小玉 裕明  
尾崎 由子 今中 弘一 濱田 寛 高田 健一  
中川 恵友 塩野 哲也

欠席者 金田 喜弘 木地 達也 池口 潤

藤井委員長	○藤井委員長より挨拶があり開会する。
事務局	1. 第2次上牧町地域福祉活動計画(案)について事務局に説明を求める。
	●事務局より資料の活動計画(案)を各章ごとに簡単に記載事項を説明する。  〈第1章〉計画の全体像や地域福祉計画との関係を含めて説明している。計画の期間をのぞき、金田先生に執筆していただいている。(初出)  〈第2章〉上牧町における地域福祉の“いま”について。第1次活動計画の成果と課題をまとめ、上牧町の地域福祉を取り巻く現状として、「地域福祉を考えるつどい」や地域福祉活動実践者の声として団体ヒアリングをとおして出てきた意見をピックアップして掲載している。(第1回策定委員会8/6資料を再編集)  〈第3章〉第2次地域福祉活動計画について。第2次活動計画の基本理念や基本目標、体系、実施計画について記載している。(第2回策定委員会12/21資料を再編集。実施計画については初出)  〈第4章〉進行管理と評価について記載している。(初出)  〈資料編〉策定委員会名簿、計画策定の経緯を資料としてまとめている。用語解説については一つ一つ解説が必要な用語の説明をするページとして設けているので、解説が必要な用語があればご意見いただけたらと思う。  ●前回から変更のあった項目及び初出の項目について、事務局からより詳細な説明がある。  ・大きな変更点として、前回までは「第2期」と記載していたが、「第2次」に変更している。作業委員会で検討し、「期」は期間を表しており、「次」は積み重ねという意味であることか

ら「次」に変更した。

・第3章の計画の体系については前回策定委員会提出の計画の骨子から変更のあった項目のみを説明。

・実施計画については初出であったことから各基本目標ごとに資料P. 12～16までを説明する。

藤井委員長

なにかご質問はありますか。

**【配食について】**

高田委員

P. 14の基本目標2の活動目標1の評価指標にある「配食サービスの試験実施」とはどのようなものか。

事務局

配食事業についてであるが、昨年末にホームヘルプ利用者がお亡くなりになり、社会福祉協議会(以下、社協)に物品寄贈したいという話をいただいた。現状として町内で配食サービスをしている事業所が少ないため、ヘルパーとボランティアで配食できないかという話が出た。冷蔵庫と食器洗浄機を寄贈いただいたので、障害者福祉センターで試験的に4月から週3回程度で1日10食くらいで実施できないかと考えている。1年間実施し、継続できるかの確認をしていきたいと考えている。まずはすでに社協と関わりのある方を対象に進めていき、ヘルパーと地域のボランティアで弁当を作り、ぷらっとのメンバーと職員で配食するという仕組みを考えている。

渡邊委員

生き活き対策課の配食サービスとの兼ね合いも考えていくほうがいいと思う。民生委員としては、広めていくにはできれば一本化にしてほしい。

事務局

4月の時点では細々とやっていくことになる。調整できる段階になれば、きちんと調整をお願いしたい。

**【子育て支援について】**

江川委員

地域子育てサロンとは何か。

事務局

服部台の憩いの家で月1回「サロンぽっぽ」というサロンをしている。服部台の子どもたちだけでなく、他の地域からも参加があり、10組くらいの参加がある。

江川委員

サロンのボランティアはどのような人たちなのか。

事務局

子育て中の母親、子どもが大きくなり手が離れた母親、孫のいる年配の方が3. 4名で活動している。

江川委員

違う地域で2カ所目を考えているということか。

事務局

以前出張駄菓子屋を開催した片岡台3丁目で考えている。

江川委員	学習支援の内容はどのようなものか。
事務局	奈良県社会福祉協議会から話があり、生活困窮者制度のひとつの事業として考えている。受験対策の勉強というよりは、地域の高齢者と関わり、関係づくりをしていきたい。社会生活や集団生活が苦手な子どももいるので、一緒に宿題をし、ご飯を食べたりすることで集団生活に慣れてもらえるようなものにしたい。
今中委員	今の段階では、詳細はつめられていない。やはり地域で子どもの居場所づくりが必要という考えのもと、上牧町社協にお願いした。気軽に子どもたちが集まれる場所づくりを目指し、これから詳細は上牧町社協とつめていこうとしている。
辻井委員	斑鳩町で「子ども食堂いかるが」が立ち上がったとのこと。30名の親子が参加され、今月末に第2回目を開催予定ですでに21名の参加があるとのこと。4月からは斑鳩町が後援してくれるかもしれないとのこと、そういう事業を上牧町でもするならば素晴らしいことであると思う。
濱田委員	「子ども食堂いかるが」のようなことをしたいとの相談もある。
小玉委員	NHKで保育所でも「子ども食堂」をしていると特集していた。
今中委員	地域の子育てサロン実施といっても「食」をキーワードにしたものを今後つめていってもいい。
事務局	学習支援は、社協だけではできないので町の方にもお願いし、連携し進めていきたい。
小玉委員	【タウンカレッジについて】 タウンカレッジのことであるが、今後もタウンカレッジという名前を使って社協と町が連携して勉強会や講座を開催していくほうがいい。
江川委員	タウンカレッジは勉強するものだと思っていた。ボランティアの経験がない人がボランティアに参加してもらおうようにするものなのか。
事務局	町内で博識の方もおられるので講座を開催し、講師となってもらうことで人材発掘をする。また、そこに参加された方々の交流の場になるようにし、居場所づくりを目指す。そして、タウンカレッジがボランティア活動のきっかけになればと考える。
小玉委員	小地域ネットワーク桜三会や自治会で地域活動をしてきた。そのなかで地域のいろいろな方と出会ってきた。現在アピタのささゆりルームで2、3年近代史の勉強会をしており、講師も桜ヶ丘の方。それをタウンカレッジでも取り入れることにしている。タウンカレッジは、参加者同士での交流もでき、居場所づくりにもなるので大変楽しみな試みである。
江川委員	町の人財バンクの登録者が10名ほどしかいないと聞いた。学校の先生以外にも近所

のおじいちゃん、おばあちゃん、子育て中の母親にボランティアに参加してもらうにはどう  
いう方法があるのか。また、タウンカレッジの参加者同士の交流の仕方をどう考えていくの  
か。幅広い内容があるといい。

尾崎委員

タウンカレッジの参加者に興味や関心を聞いていくことで新たな広がりを見せると思う。  
参加者の声で発展していくものである。参加者から講師になってくれる人が生まれるよう  
に上牧独自の展開をしていけたらと思う。

【その他】

今中委員

全体的なことでの意見であるが、何度か作業委員会に参加した。この計画は上牧住民  
の生の声に基づいているという強みがある。ただ単にボランティアを育成するという意味合  
いだけでなく、ボランティア活動参加のきっかけづくりや参加してからの支援が大切。社協  
だけではできないことなので、町とも連携してほしい。「社協の基盤強化」についての表現  
も盛り込んでいくほうがいいかもしれない。

事務局

第1次活動計画は、社協が法人化し25周年で初めて策定したので、社協の基盤をどう  
していくかという地域福祉活動計画ではないことも含めていた。今回の活動計画では社協  
の基盤については触れていない。ここ5年間をみたときにそこに触れないわけにはいかな  
いので、作業委員会でもう一度協議していきたい。

藤井委員長

他に質問等がなければ本日の委員会はこれで終了とする。事務局から他になにかあれ  
ば。

事務局

次回の日程は、町の福祉計画策定委員会の後に開催。次回の策定委員会までに意見  
があれば事務局までお願いしたい。次回は3月開催予定。

(以上)